

# 特殊詐欺は「他人事」ではない

## 第2弾(フィッシング詐欺等)

今回は、フィッシング詐欺についてレポートします。フィッシングとは、メールやSMS(ショートメッセージ)を使って利用者を偽サイトに誘導し、ID・パスワードやクレジットカード情報等を入力させて、それらの情報を盗み取る手口です。知名度の高い大企業や実在する団体名を使い、メールのリンクから偽サイト『フィッシングサイト』へ誘導するケースが多いようです。もし、フィッシング詐欺にあえば、クレジットカード番号等の個人情報が漏洩し、通販サイト等でクレジットカードが不正に利用される恐れがあります。

偽メールの内容は、「重要なお知らせ」「本人確認」「不正ログイン」「料金未支払い通知」等、どれも利用者をあせらせるものになっています。その手口や対策について、その道のエキスパートにご教示いただきました。それを皆さんに紹介しましょう。

### ①お知らせのふりをしたメール

通販サイトやカード会社の名前を使い、お知らせメールを装って偽サイトへ誘導する手口についてです。今日、ネット通販を利用される方が増えていますが、その被害も急増しています。お知らせのふりをした詐欺メール(フィッシングメール)は本物によく似たURLを使用し、リンク先も本物そっくりのため、気づきにくくなるように偽装されています。その上、「重要」「要確認」など不安や焦りを感じさせる表現がよく使われています。

送信されてきたメールが少しおかしい、偽メールではと感ずれば、送信ドメイン(インターネット上の住所のこと)を確認することが一つの方法です。大手の企業はドメイン名を取得しホームページなどで公開していますので、公開しているドメイン名と一致しているかどうか確認しましょう。ちなみに、三井住友銀行のドメインは、『smbc.co.jp』アマゾンには『amazon.co.jp または amazon.jp』、ヤマト運輸は『kuronekoyamato.co.jp』です。



### ②ショートメール(SMSメール)

ショートメールを悪用した詐欺行為を「スミッシング」と言いますが、宅配業者を装った不在確認連絡があります。

私にも「本人様不在の為お荷物を持ち帰りましたm.ご確\*認下さい」等の偽メールがよく届きます。このように、日本語の使い方がおかしい場合なども、偽メールであるかを見分ける一つの方法です。大手宅配業者の佐川急便やヤマト運輸では、「不在確認のSMSを送ることはない」と、公式ホームページで注意喚起をしています。「**【本人確認手続き】下記のURLで、至急ご確認が必要です**」などはフィッシングメールです。ID・パスワードを入力しないで下さい。



### ③フィッシングサイト

実在の金融機関やショッピングサイト、宅配業者などを装ったサイト。本物と間違ってしまうほど巧妙に作成されていますので、多くの被害が発生しています。フィッシングサイトでIDやパスワード、クレジットカード番号を入力してしまうと、個人情報が流出したりクレジットカードが不正に利用させる可能性があります。フィッシングサイトを開き、個人情報を入力していない場合は、直接被害にあう可能性は低いですが、ウイルスに感染してしまう場合があります。メールやショートメールに記載されたURLのリンクをクリックしないこと。



### ④その他(ウイルス感染などを装ったメッセージ)

インターネット利用中に、突然「急いでこの電話番号にかけて下さい」「至急こちらを確認して手続きをお願いします」など、ウイルス感染の警告画面が表示され警告音が鳴ることがあります。これは偽の警告で平常心を失わせることが目的で、個人情報をだまし取る手口の一つです。「画面が消せない」ときは、①キーボード左上の「Esc(エスケープキー)」を長押しして、一回り小さくなった警告画面の右上に表示される「x」を押して、警告画面を閉じる。②電源ボタンを長押ししてパソコンを強制終了させる。



不安に思ったらまず相談を  
警察相談専用窓口 ☎#9110(全国共通)

<例>・誤ってID・パスワードを入力した  
・サポート費用として代金を支払った  
・代金を振り込んだが商品が届かない

# 山王祭その2(天台座主が例祭に花を添えられる)



4月14日8時30分より東本宮で例祭が営まれたのち、10時より西本宮で例祭が執行されます。宮司による祝詞(のりと)奏上ののち、天台座主により五色(ごしき)の幣(へい：お祓いに使う)が奉納されます。その後、座主が本殿に延暦寺の僧が本殿前に居並び、般若心経を唱和されます。神仏習合の古式が今に伝えられています。非常に珍しい光景で、神々しさに感動します。

かかるように、東本宮系の神事並びに西本宮系の神事が営まれますが、西本宮の例祭には天台座主や僧侶が参加されます。これが日吉山王祭の中でも特筆すべき特徴であります。そのいわれは次の通りです。

日本最古の史書『古事記』に、「大山咋神(おおやまくいのかみ)、またの名は山末大主神(やますえおおぬしのかみ)。この神は近淡海国(ちかづおうみのくに)の日枝(ひえ)の山(比叡山)に座(ま)し」と記されています。もともと、大山咋神は山麓で生活していた古代の人々によって信仰されていました。別名を山末大主神と呼ぶように、比叡山の主は、高い山の神を麓の集落近くにお招きする依代の山、つまり八王子山(牛尾山)にお住まいでした。まさに、「比叡の山に座す」大山咋神を祀るのが、東本宮(旧称二宮)なのであります。その伝承に従って、山王祭が執り行われています。つまり、八王子山(比叡山)を信仰する形で起こった東本宮系(東本宮、牛尾宮、樹下宮、三宮)の神事として、牛尾宮・三宮に神輿二基を担ぎ上げた後、松明の明かりの中、急坂を下り、これを東本宮に収める「午(うま)の神事」。そして、東本宮系四社による「宵宮(よみや)落とし」があります。

一方、天智天皇の天津遷都(667年)のとき、大和国(奈良県)三輪山(みわやま)に座す三輪明神がこの地に勧請(かんじょう：神様をお招きすること)され、西本宮(旧

称大宮)ができたことと伝えられています。その次第が『日吉社神道秘密記』に記されています。その一節を日吉大社須原禰宜が要約して下さり、それは次の通りです。

「668年、ある神が唐崎に現れ、そこに住む琴御館字志丸(このみたちうしまる)に会って神であることを告げ、鎮座すべき地を尋ねる。琴御館は唐崎沖に五色の波と経文(『一切衆生悉有仏性 如来常住無有変易(涅槃経)』)が響いていることを教える。三輪山の大神(おなむちのかみ)と名乗り、船に乗ったまま松の梢(こずえ)に上がる神業を見せた。琴御館は、比叡山の麓に近い場所があり、御跡を追って参り、神殿を建てお祀りすると約束。大神は唐崎同様に五色の波と経文の響きがする場所にたどり着き、携えている杖をこの地に差し立てた。後から来た琴御館は神殿を建立し、お祀りした。これが現在の日吉大社西本宮」と。

また、西本宮は伝教大師最澄が入山後、延暦寺の鎮守神、天台宗の鎮護神として位置づけられ、「山王権現」とも称せられています。

東本宮系と同様、その伝承に従って、西本宮系の山王

祭が執行されています。つまり、国家鎮護の宮として発展した西本宮系(西本宮、宇佐宮、白山宮)の神事として、境内にて生育した榊(さかき)を大津の天孫神社に運ぶ「大神神事」、神輿を乗せた船が唐崎沖まで巡航する「船渡御」、それに伴う「粟津の御供(ごく)」などがあります。そして、比叡山延暦寺との関係では、延暦寺の座主や僧侶が読経される「五色の奉幣」の他、伝教大師にちなむ「献茶式」も執り行われます。



## 山王祭への協賛金をお願いします(下阪本駕輿丁より)

山王祭は日吉大社と駕輿丁で執行します。神事は神職が、神輿は駕輿丁が仕切る祭りなのです。駕輿丁は神輿上げ・午の神事・宵宮落とし・神輿神幸・船渡御を担当します。それらを執行するには「人」と「資金」が必要です。祭りには老いも若きもが、業種を越えて参加し、山王祭を盛り上げてくれています。皆さん、駕輿丁に参加して下さい。一方、資金面はメンバーに加え、会社や事業所の協賛金に頼っています。皆さま方の協賛金には大変感謝しております。このような大事業・活動を維持していくには多くの資金が必要なのです。今までのように山王祭が執行できますように、何とぞ皆さまのお力添え・協賛金をお願いします。振込先は下記の通りです。

【レーク滋賀農業協同組合西大津支店】【口座番号：0035790】【普通】【下阪本駕輿丁 代表 津田長美】